

令和2年度 五小コミュニティ・スクール（GCS）および地域連携についてのアンケート

- 1 実施 令和2年12月1日（火）～8日（火）
 2 回答数 131 家庭（全家庭数 224）
 3 指標 A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない E：分からない

No.	質問	A	B	C	D	E
1	福生第五小学校が、福生市よりコミュニティ・スクールの指定を受けていることを知っている。	77%	10%	4%	2%	7%
②	コミュニティ・スクールとして実施される地域連携の取組に、できれば参加したいと考える。	13%	40%	18%	14%	15%
③	地域連携の一貫であり、芝生管理の活動である『五小芝生の会』に、日程が合えば参加してもよいと考える。	16%	36%	22%	16%	7%
④	地域連携の一貫として、運動会プログラムに『ふっさ音頭』が取り入れられれば、運動会で参加しても良いと考える。	10%	30%	20%	24%	16%
5	登下校の見守りや七五三挨拶ストリート運動といったGCSの見守り活動が行われていることを知っている。	61%	18%	6%	2%	13%
⑥	「水・防災訓練」は、GCSと学校が連携して、子供を含めた地域全体での防災意識を高めるために必要である。	58%	31%	4%	1%	6%
7	春・秋・冬の野鳥や自然の観察会、巣箱管理に関する活動について、GCSの支援を受けていることを知っている。	42%	18%	7%	12%	22%
8	野鳥や自然の観察会で、学んだり、体験したりしたことを子供たちは家庭で話している。	67%	25%	4%	5%	0%
9	GCS主催の教育活動支援としての「漢字検定」は子供たちの成長に生きている。	33%	36%	8%	2%	22%
10	学校だよりでGCSの取り組みを紹介することでGCSの取組について知ることができている。	47%	30%	6%	5%	12%
11	GCS便り（7月発行）は、GCSの取組を知っていただく上で効果的と考える。	41%	36%	7%	3%	13%

※ ○の番号の取組は、新型コロナウイルス感染症対策のため令和2年度に実施しておりません。

★いただいた主なコメント★ () …同様の意見の数
・いつも子どもたちを見守ってくださり、ありがとうございます。登下校の見守りなど本当にありがたいです。(4)
・自然観察会など、子どもが楽しい経験ができて嬉しそうです。
・いつも子どもたちのために考え働いてくださっていることに大変感謝致します。
・核家族が多い中、年配の方、地域の方と触れ合う機会がもたれ、防犯や、人との接し方、人としての大切な事が学べると思います。親以外の大人と接することはとても大事だと思います。
・正直、指定自体知らなかったのもっと色々な折に触れPRしてほしい。本件に限らず、HP、デジタル化、オンライン化の推進に力を入れてほしい。
・(9に関して) 知りませんでした。プリント類、ちゃんと読まなければ…。鉄棒がある公園が少ないので、逆上がり教室とかやってほしい。
・漢字検定で、自分で勉強して、検定に合格し自信につながるので、ぜひ続けてほしい。英検も五小で受験できるよう復活してほしいです。
・芝生管理は参加したいという気持ちがあるものの、アレルギーで体調を崩しかねないという不安から、なかなか参加できずにいる。他の活動で参加できるものをもっとあれば良いと思う。
・活動には参加した事はないのですが、下の子が落ちたら参加したいです。
・GCSが何の略か、いつも忘れてしまいます。アンケートの上部に五小コミュニティ・スクールと書いてあったので思い出しました。
・No.4「親子競技（演技）」として強制的であれば参加するが、自由参加型なら参加しないと思います。

令和2年度

～福生五小コミュニティ・スクール通信～

GCSだより

No.2 令和3年3月発行



イメージキャラクター「ゴッチくん」



できることは諦めずにやってみよう！

五小コミュニティ・スクール委員長 撰梅 敏夫

コロナウイルス感染症の拡大により子供たちの学校生活は様変わりしてしまいました。昨年6月の学校再開以降、子供たちは自分たちの学校生活が続けられる様に決められた学校でのルールを守り続け、この3月を迎えました。学校生活でのルールを守った子供たちの頑張りにエールを送ってあげてください。一年生は学校生活に慣れて一步一步成長し、六年生は小学校生活最後の一年を大切に一年間を過ごして来ました。今年の春は何とか、学校生活終わりの3月と始まりの4月が昨年とは違い、無事に卒業式と入学式ができることを願うばかりです。

さて本校のコミュニティ・スクール(CS)活動はCS指定後、3年が経ちました。今年度はコロナ禍の中で予定していた活動が十分にできない一年でした。その中でも、できることは諦めずにやってみようをモットーに取組んだ結果がGCSだよりの取組み紹介です。4つの部会では掲載された様な取組みを行うことができました。今後、新型コロナウイルス感染の拡がりが一日も早く収まることを願い、来年度は今年取組めなかった活動の実施に努めて参りたいと思います。保護者の皆様には引き続き本校のコミュニティ・スクール活動に関心を持っていただきご協力をお願いいたします。

校長挨拶

福生第五小学校長 松下 正代

中身の濃い令和2年度でした（まだ進行中）。一番は「コロナ対応」です。『新しい生活様式』といった目に見える部分については、可能な限り対応をしましたが、目に見えにくい部分の変化への対応が十分であるのかは心配です。それは、児童の心のあり様への対応です。

日々のニュースや周りの大人たちの様子から、経済や医療現場の大変苦しい状況も子供たちなりに感じ、理解しています。だから、行事、大好きな表現活動、クラス団らの場である給食等全てにおいて制限がかかる状況にも文句もつけず、子供たちはよく従い頑張っています。

そんな子供たちに私たち大人が充実させたいことは、気配り・目配りです。子供の声に耳を傾け、子供の心配な行動は情報共有し適切に声をかけ、沈みがちな社会の雰囲気の中でも大人が日々の生活を柔軟にこなす生きる力を伝える、そんな地域の活力で子供たちを支えてゆきましょう。『協働』。今は、気配り・目配りがその中心です。

福生五小コミュニティ・スクールの取組は「福生の教育」や「広報 ふっさ」に紹介されています。

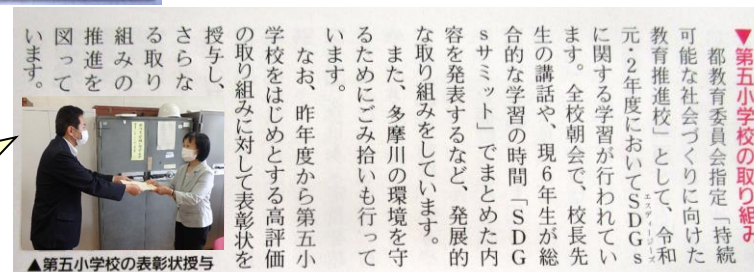
第五小学校



コミュニティ・スクールとして地域の方の検温や運動会等での温かい見守りがあります。子どもと教職員は、「いのち」をテーマにたくさん工夫をして持続可能な社会づくりに向けた教育活動を展開しています。

「福生の教育」第71号（1月4日）五小のコミュニティ・スクールとしての取組を紹介しています。

「広報 ふっさ」第1062号（1月4日）GCS委員・拡大GCS委員のバックアップのおかげで、表彰状をいただきました。



▲第五小学校の表彰状授与

▼第五小学校の取り組み
都教育委員会指定「持続可能な社会づくりに向けた教育推進校」として、令和元・2年度においてSDGsに関する学習が行われています。全校朝会で、校長先生の講話や、現6年生が総合的な学習の時間「SDGsサミット」でまとめた内容を発表するなど、発展的な取り組みをしています。また、多摩川環境を守るためにごみ拾いも行っています。